



「ルール」と「リレーション」

教室を楽しく豊かな学びの場にするためには、認め合い、学び合う場であることが「大前提」です。コミュニケーションが活発ではない、関係性の薄い教室だと学びの場にはなりません。全員が笑顔で自由に意見を交わし合える、風通しの良い教室であれば、信頼感が生まれ、落ち着いていきます。まずは、最初の空気づくりをすることからスタートです。この空気づくりが、チームワークの第一歩になります。

チームワークとは、ただみんなで協力することではありません。チームの目標達成に必要な活動を促進させるために、メンバー間で行われるコミュニケーションや相互作用全般のことをチームワークと言います。つまり、「チーム力」を高めるとは、メンバー間のコミュニケーションや相互作用の質を高めることです。

マサチューセッツ工科大学のダニエル・キム教授が提唱している「成功の循環」は、『①関係の質が高まる→②思考の質が高まる→③行動の質が高まる→④結果の質が高まる→①関係の質が高まる・・・』という因果関係の循環であり、これは、よい循環にもなれば、悪循環にもなるのです。

このことから、「チーム力」を高めるとは「関係の質」をまず高めることになり、それが遠回りのように思えても結局、結果の質を左右するということがわかります。

また、最初の空気づくりは何といても、「聴き合う関係」づくりです。「安心して話をしたくなる雰囲気」をつくるのが、教室のチーム力を高める第一歩になります。

チームの中で、個が生きるつながりを生むのが「聴き合う関係」であり、それは、「学び合う」「つながり合う」「高め合う」という循環を生みます。反対に、「聴かない」とは「効かない」（よい作用や影響が現れない）ということです。つまり、「自分を出せない」→「わかり合えない」→「力が発揮できない」→「沈め合う」では、最悪のチームとしかいえません。安心感を生み出すためには、お互いを認め合う、ポジティブであたたかな「聴き合う関係」を構築することが大切です。

これは、「教室のルールの確立」と「信頼感のある人間関係（リレーション）」の相互作用からつくられます。つまり、ルールを守ると安心感が生まれリレーションができるし、リレーションが高まると、そこにあるルールを尊重するようになります。

例えば、話すことが苦手な人であっても、まわりが耳を傾け、大きくうなずきながら聴いてくれば、安心して話ができます。間違えても笑われたり、嫌なことは言われたりしない、途中でさえぎらずに最後まで聴いてくれるという安心感が、相手への信頼になり、その信頼がルールを守らせるようになるという相互作用です。この「ルール」と「リレーション」の相互作用を基盤とした「聴き合う関係」が、人と人をつなげ、チームが育つ土壌となるのです。

もし以下に書く「つまづきの4つの予兆」が教室にあるようであれば、大至急みんなで改善してください。

【取り組みの乱れ】掃除をしない、係活動にいい加減に取り組む
【学習姿勢の乱れ】発表や話し合いをしない、忘れ物が多い
【言葉の乱れ】あいさつをしない、思いやりのない言葉がある
【教室の乱れ】机が並んでいない、棚の整理が乱雑である
乱れている予兆がひとつでもあれば、関係の質が低下することにつながる
「崩壊はゆるやかに始まり、急激に進行する」